

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町戸谷8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆 続報 現況報告 状況証拠的ではあるが現状3月25日±1を示す可能性有

右図は上がNo.1778前兆、下がNo.2710前兆の時間軸を合わせた前兆出現状況図です。

No.1778では、CH21特異が3/3と3/10に完全系状態が出現。3/3が顕著で3/10は弱い。

3/8午後～ 3/11迄断続的に糸状態。3/3主極大、3/10副極大の可能性有。No.2710ではA4特異が完全系状態となり、A1BT顕著な2/23、3/3、3/10がバツッされます。状況から2/23主極大、3/3副極大の可能性有。3/3極大、3/10副極大の関係も見えます。どの関係からも3/25±を示す関係に見えます。

ここで興味深いのは本認識が正しい場合3/3、3/10の主副極大が、No.1778とNo.2710両方で同期出現していることです。

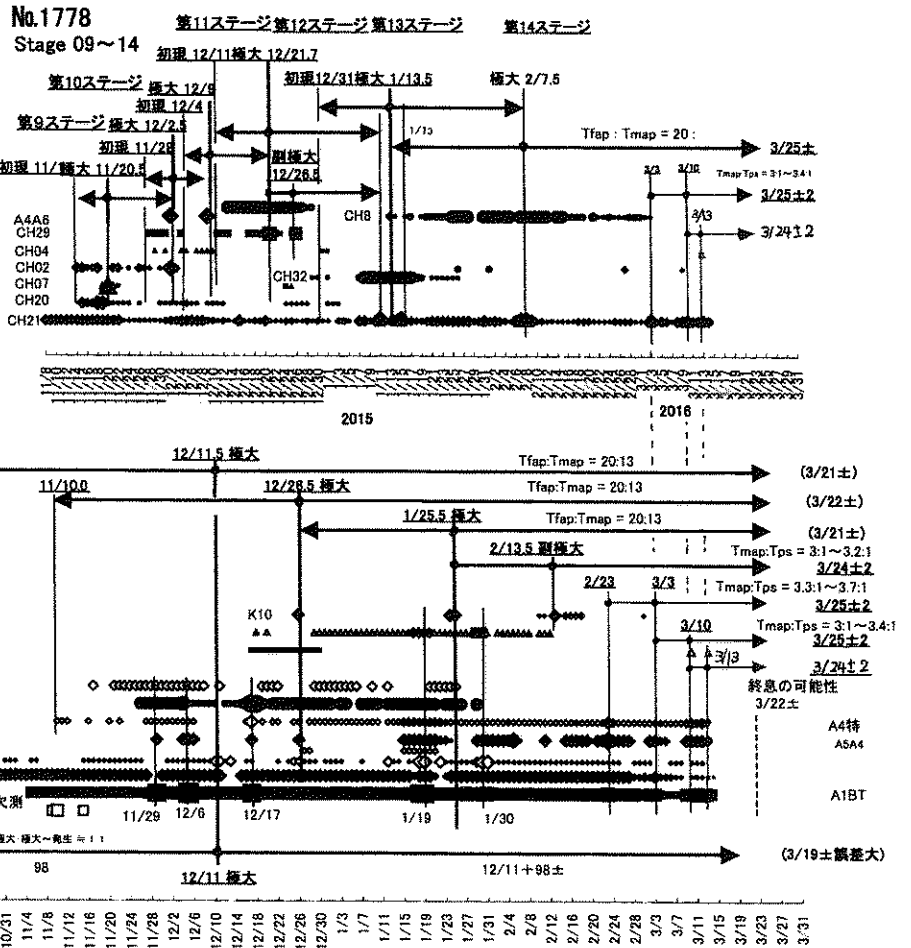
他の極大時期は合っていないが、同一極大が出現したことで、同一地震前兆である認識が正しいと言えます。過去例でも同一地震に対し別形態前兆が出現した例は有。

3/13の夕刻に再びCH32に特異。CH04にも短時間の特異出現。

3/10と3/13.7

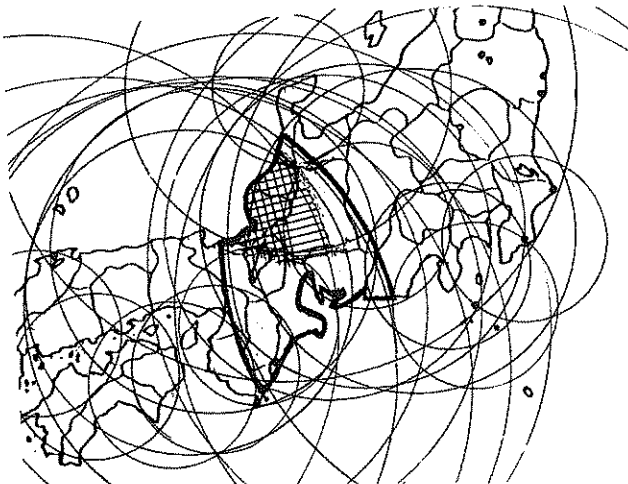
の関係から、主副極大の可能性とした場合は、同様に3/24±を示す関係となります。これは不確かです。但し、現状までの関係から(認識が正しい場合は)No.1778前兆第14ステージも、No.2710前兆も、3月25日±1時期を示している可能性があります。

前兆は、No.1778関連認識では、CH08振動型BFは既に終息済でCH21の特異のみ。No.2710関連認識では、糸状特異が継続していたCH17は正常基線を記録する時間が長くなってきました他、本



日子-9 では、秋田観測点の前兆もA1-BTのみとなっています。

No.1778前兆のCH21とNo.2710前兆の各前兆が終息しない理由として前述のとおりの小ベークが考えられます。明確な前兆終息が確認できた訳ではなく、まだ前兆が続いておりますため、あくまでも状況証拠的な関係ですが、3月25日±を示している可能性がありますので、現況報告として報告させて戴きました。今後の観測で変化や内容修正の必要が出た場合は続報致します。



- ◆推定領域：左図 太線斜線内=大枠推定領域
斜線領域内=可能性が考えやすい推定領域
丸 斜線領域内=参考推定領域
(※解説は続報No.131を参照下さい)

- ◆推定規模：M7.8±0.5
- ◆推定時期：No.1778第14ステージとNo.2710前兆が現状示す時期は3月25日±1(今後の観測で修正の可能性も有)
※但し上記時期が対応地震発生時期の場合は、3月22日±1前兆終息が条件。終息しない場合は発生日はより先。再考。
(終息確認続報は3/23夜となる可能性も有)
- ◇推定地震種：震源が30km以浅等の浅い陸域の日本列島地殻地震
- ◇推定発生時刻：午前9時±1時間(または午後6時±3時間)